

令和 2 年 度

# 県の施策及び予算に関する要望

令和元年 1 2 月 2 4 日

新潟県市長会



## 令和2年度 県の施策及び予算に関する要望

### 【 重点要望 】

#### 目 次

1. 新潟県の行財政改革について……………	1
2. 地方創生及び定住人口増加策の推進について……………	1
3. 原子力発電所に係る防災対策等について……………	1
4. 大規模自然災害に対する防災対策について……………	2
5. 教育・文化施策等の推進について……………	3
6. 子ども・子育て支援施策の推進について……………	3
7. 地域医療・福祉施策の充実について……………	4
8. 土木費予算の増額について……………	5
9. 都市基盤施策の充実強化について……………	5
10. 拠点性の向上と交通網の強化について……………	6
11. 農業施策の推進について……………	7
12. 地域経済・観光産業の振興について……………	8



平素は、県内都市自治体の自治振興につきまして、格別のご高配とご指導を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本県では、全国を上回るペースで少子高齢化が進む中、人口が減少した中でも暮らしと経済を向上させていくためには、定住人口を増加させることはもとより、交流人口の増加や県産品の販路拡大などに積極的に取組み、新潟県の存在感を高めることが求められております。

また、我々都市自治体においては、地域の実情に応じた施策を、それぞれの地方版総合戦略等に基づき、創意工夫をして積極的に取り組んでいますが、交通環境整備や地域医療体制の充実など、個々の都市自治体や一地域の取組だけでは地方創生に向けた対応に限界があることも確かであります。

こうした中で、我々都市自治体は、新潟県全体の拠点性と住民福祉の向上をめざし、国や県、市町村がそれぞれの役割分担に基づき、県の広域的視点と基礎自治体としての現場力が強固にスクラムを組み、一丸となって、様々な施策を展開したいと考えています。

つきましては、行ってみたい・住んでみたい・帰ってきたい「にいがた」を実現させるため、住民の安全・安心を最前線で守る我々都市自治体の「現場の声」を十分にお聞きいただくとともに、山積している喫緊の課題について、積極的かつ適切に県の施策及び令和2年度予算に反映していただくよう、特段のご理解とご高配をお願い申し上げます。

令和元年12月24日

新潟県市長会長 久住 時男



## 1 新潟県の行財政改革について

県行財政改革における投資的経費及び県単独事業の見直しにあたっては、短期的なコストだけを重視した一律の削減ではなく、事業効果を検証し、未来への投資という視点を重視して実施するとともに、市町村の当初予算編成に影響を及ぼすことの無いよう、市町村との意思疎通を十分に図ること。

## 2 地方創生及び定住人口増加策の推進について

### (1) 定住人口増加策の推進について

「ハートマッチにいがた」事業を県内全域に広め、会員数の増加及び成婚数の上昇に繋げるため、サポートセンターを追加設置すること。

また、定住自立圏で取組む臨時センターや市独自で設置する婚活支援センターの運営に対して財政支援すること。

### (2) 過疎対策の連携した取組について

過疎地域自立促進特別措置法で指定されている一部過疎地域やみなし過疎地域を含めた過疎地域が、これまでと同様に実効性ある過疎対策を推進できるよう、支援の継続について、関係市町村と連携し、国へ働きかけること。

## 3 原子力発電所に係る防災対策等について

### (1) 実効性のある防災対策について

「市町村による原子力安全対策に関する研究会」の意見を踏まえ、病院・福祉施設等の避難先確保と避難計画の策定、避難バスの確保と避難道路の重点整備などの広域避難に係る課題解決に取り組むとともに、県の広域避難計画の実効性を高めるよう、原子力防災実動訓練を継続的に実施すること。

### (2) 原子力防災体制の確立について

原子力防災対策における国・県・市町村の役割と責任を明確にし、市町村の原子力防災体制確立のための財政措置を講じるとともに、警察、消防、自衛隊などの実働組織と連携し、市町村の原子力防災対策を支援すること。

### **(3) 原子力発電所事故に関する3つの検証について**

福島第一原子力発電所事故の3つの検証をしっかりと進め、経過を市町村に分かりやすく説明するとともに、検証結果を同原発の安全確保や防災対策の構築に反映すること。

### **(4) 柏崎刈羽原子力発電所の安全の確保等について**

再稼働の如何にかかわらず、いかなる場合においても柏崎刈羽原子力発電所の安全が確保できるよう万全の対策を講じること。

また、同原発の適合性審査について、県として必要な検証を行い、その結果を市町村に分かりやすく説明すること。

### **(5) 原子力災害広域避難個別マニュアル等の実効性向上について**

県の広域避難計画の原子力災害医療マニュアル、安定ヨウ素剤配布計画及びスクリーニング・簡易除染マニュアル等について、調整中の項目を早期に定めること。

## **4 大規模自然災害に対する防災対策について**

### **(1) 治水対策の推進について**

流下能力が低く、市街地及び農地等に甚大な浸水被害を与える恐れのある県管理河川について、整備のための予算を十分確保し、早期に改修事業を推進するとともに、河床掘削や雑木伐採など、適切な維持管理に努めること。

また、近年多発している豪雨災害を踏まえ、必要に応じて河川整備計画の見直しを行うこと。

### **(2) 砂防事業の推進について**

全国各地で発生している土砂災害等の教訓を踏まえ、整備のための予算を十分確保し、砂防事業を推進するとともに、引き続き、保全対象人家の戸数や要配慮者利用施設の配置状況等を確認し、重要度の高い未整備箇所の整備を推進すること。

### **(3) 防災対策への財政支援について**

土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域等における情報伝達機器整備及び、風水害・津波浸水想定の見直し及び津波災害警戒区域指定に伴うハザードマップの修正に対して財政支援を講じること。



#### (4) 災害時監視体制整備について

河川及び海岸の監視・防災体制を充実させるため、水位計、定点カメラ、及びサイレン設備等を増設するとともに、カメラ監視システムを構築すること。

また、県管理河川における想定最大規模の浸水想定区域図を作成、公表すること。

### 5 教育・文化施策等の推進について

#### (1) 食物アレルギーへの対応について

食育の推進や食物アレルギーへの十分な対応のため、栄養教諭等の配置基準を見直し、各学校の必要性に応じた増員配置を行うこと。

#### (2) 障害児等の学習環境の充実について

市の財政状況に関わらず、県内の特別支援教育の水準を確保するため、特別な支援・配慮を要する児童生徒を支援する介助員等の配置に対する財政支援制度を創設すること。

#### (3) 通級指導教室の体制整備について

希望する児童生徒が発達障害通級指導教室に入級等できるよう、必要な通級指導教室を新增設すること。

また、担当教員について、児童生徒 13 人に教員 1 人を充てる算定基準を早期に実現するとともに、専門的知識や豊かな経験を有した担当教員を確保・育成するための体制を整備すること。

#### (4) 文化財保護への財政支援について

県の施策に基づき実施するほ場整備に伴う埋蔵文化財の試掘確認調査補助事業等については、市町村の事業実施に支障とならないよう、県の補助金の所要額を確保すること。

### 6 子ども・子育て支援施策の推進について

#### (1) 子ども医療費助成等交付金について

子ども医療費の助成に係るシビルミニマムは、高校卒業までを目標とし、それに向けた子ども医療費助成等交付金の交付額確保に努めること。

## **(2) 未満児保育事業の見直しについて**

未満児保育事業では、乳児9人以上を入所させる私立保育所に看護師等の配置を義務付けているが、その配置に係る経費が補助対象外であり、市が独自に補助を行って看護師等の配置を促している。待機児童を発生させないために、看護師等の配置基準緩和や補助対象拡充など、制度の見直しを行うこと。

## **(3) 妊産婦への支援について**

妊産婦の経済的負担を軽減し、安心して出産できる環境を整えるため、妊産婦医療費助成制度を創設すること。

## **(4) 病児・病後児保育事業への支援について**

病児・病後児保育施設運営に対する特別保育事業補助金について、施設開設後3年目以降も補助対象とするよう制度を拡充すること。

# **7 地域医療・福祉施策の充実について**

## **(1) 地域医療構想の実施について**

地域医療体制を維持・存続するため、地域医療構想調整会議において、地域の実情を考慮し十分に議論すること。

また、同構想の下で求められる病院機能を実現するため、自治体病院等が取り組む施設整備等に対し、新潟県地域医療介護総合確保基金を活用する等、財政支援を講じること。

## **(2) 医師確保対策等の充実について**

産科、小児科医等をはじめとする医師・看護師の確保対策及び二次医療圏として必要な医療提供体制の構築に対し、実効性ある対策と必要な財政支援措置を講じること。

また、医師・看護師及び薬剤師の地域偏在や診療科偏在を解消すること。

## **(3) 県央基幹病院の早期開院等について**

県央基幹病院については、県央基幹病院整備基本計画に基づき、「令和5年度早期」の開院に向けた調整・準備を確実に進めるとともに、課題となっている医師・看護師確保及びアクセス道路や周辺環境の整備等を促進すること。

#### (4) 公的病院への財政支援について

地域医療体制維持のため、公的病院に対し、公立病院と同程度の財政支援が講じられるよう国へ働きかけること。

#### (5) 胃がん検診における体制整備について

県の胃がん検診ガイドラインを踏まえ、広域的な「胃内視鏡検診運営委員会」や「読影委員会」の設置、医師による二重読影体制の整備など、胃がん検診における内視鏡検査導入のための体制整備に取り組むこと。

また、胃がんリスク検診（ピロリ菌）を検診に追加するなど、多くの市町村で効果的な胃がん検診が実施できるよう支援すること。

#### (6) 障害児等保育事業の拡充について

県単障害児等保育事業について、補助基準単価を上げるとともに、障害の有無を判断する者や加配職員の範囲を拡充すること。

#### (7) 地域生活支援事業補助金の予算確保について

障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業補助金について、市町村の超過負担を解消するため、十分な予算を確保すること。

#### (8) 民生委員活動への財政支援について

民生委員及び児童委員の活動しやすい環境づくりのため、民生委員・児童委員の活動費に係る財政支援を拡充すること。

### 8 土木費予算の増額について

日本海沿岸東北自動車道や大河津分水改修事業などの大規模プロジェクト事業に係る直轄事業については、県の社会資本整備の計画的な実施を妨げることのないよう、通常の土木費とは別枠の予算で対応すること。

また、地方の道路整備や維持管理を着実に進め、安全で円滑な交通を確保するため、大幅な予算の増額措置を講じること。

### 9 都市基盤施策の充実強化について

#### (1) 中心市街地活性化の推進について

広域的なまちづくり効果を創出する市街地再開発事業に対し、再開発事業本体への支援をはじめ、導入する拠点施設の整備等への財政支援を講じること。

## **(2) 県管理道路の整備促進と維持管理について**

県管理道路の改良等を促進するとともに、道路及び橋梁等施設の修復・老朽化対策など、適切な維持管理のための予算を十分に確保すること。

## **(3) 除排雪作業費に対する財政支援について**

冬期集落保安要員制度における集落要件の緩和を図るとともに、小型除雪機購入に係る補助限度額及び補助率の嵩上げなど、地域の自立・安全を支援する事業について、制度の拡充を図ること。

## **(4) 空き家対策の推進について**

適切な管理が行われていない空き家が、地域住民の生活環境等に深刻な影響を及ぼしていることから「空家等対策の推進に関する特別措置法」に基づき、特定空家等の取り壊し等の危険除去に要する費用に対して、県の財政支援制度を早急に創設すること。

## **(5) 海岸整備事業の推進について**

海岸沿線住民の安全・安心な生活や、海岸景観の保全など、海岸保全施設を早急に整備し、海岸侵食対策を推進すること。

# **10 拠点性の向上と交通網の強化について**

## **(1) 地域高規格道路等整備の推進について**

大規模災害時における代替性の確保、救急医療体制の充実及び、地域経済の活性化を図るため、地域高規格道路を早期に整備するとともに、国県道など、幹線道路整備を促進すること。

## **(2) 県内都市間交通の充実について**

通勤・通学、病院受診に必要な全ての高速バス路線等を対象に県内高速バス路線対策費補助事業の拡充を図るとともに、国庫補助基準に満たない都市間を結ぶ一般路線バスについて、維持確保のため支援すること。

また、都市内交通の円滑な運用のため、交通管理及び交通政策面からの支援を講じること。

### (3) 生活バス交通の確保について

持続可能な生活交通を確保するため、生活交通確保対策事業において、平均乗車密度や補助対象経費算定時の運行回数の要件を緩和するとともに、運行回数の少ないコミュニティバスや市町村単独で運営するデマンド交通等を対象とするよう、制度の拡充を図ること。

### (4) 北陸新幹線等の利便性向上について

北陸新幹線「かがやき」の県内駅停車及び「あさま」「つるぎ」の県内駅までの延伸に対し、人的・財政の両面から支援を講じるとともに、糸魚川駅から新潟駅までの在来線の利便性向上を図ること。

### (5) 羽越本線等の高速・安定運行について

列島横断軸を形成する北陸新幹線と上越新幹線の2つの新幹線が運行していることから、この効果を広域連携や交流拡大に活かし、相互に補完し、日本海国土軸の形成・強化につながる羽越本線、白新線の高速化・安全対策強化による安定運行に向けた具体的な検討を推進するとともに、乗車環境の改善に向け取り組みを推進すること。

また、羽越新幹線の整備に必要な調査を早期に実施すること。

### (6) 新潟空港へのアクセスの充実等について

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を契機とする需要増を見据え、新潟空港の機能強化を図るとともに、早期に軌道系アクセスの検討を行うこと。

### (7) 港湾の利用促進について

県内港について、クルーズ船を含む大型船舶の受け入れ拡大とエネルギー国内供給拠点としての活用促進のため、航路浚渫、防波堤・岸壁整備等、港湾機能強化等を図ること。

また、取扱貨物量拡大のため、国際海上物流に係るインセンティブ制度を充実すること。

## 11 農業施策の推進について

### (1) 農業の持続的発展について

日本型直接支払制度交付金について、将来に向けて農業生産活動を持続させるため、要望事業量に見合う予算を確保するとともに早期の交付に努めること。

## (2) 園芸農業への転換促進について

新規のほ場整備地区も含め、稲作主体の経営から園芸を導入した複合営農への転換促進のため、機械・施設導入に対する財政支援の拡充や、生産から販売までの総合的な支援体制を構築するとともに、県のトップセールスによる販路拡大を図ること。

## 12 地域経済・観光産業の振興について

### (1) 地域経済の活性化について

にいがた産業創造機構の中小企業支援策メニューの継続及び事業予算の充実・強化を図るとともに、「マイナス金利」制度の適用要件緩和と手続の簡素化を図ること。

### (2) 企業誘致施策の充実について

新潟県内への企業誘致を推進するため、企業誘致に係る補助制度の適用要件の緩和や財政措置の拡充を行うとともに、県と誘致自治体との更なる連携強化を図ること。

### (3) 就労支援施策の充実について

県内各地域若者サポートステーションに対し、地方交付税措置を踏まえ、「地域の実情に応じて実施する事項」について財政措置を講じるとともに、全市町村が公平にサポートステーションのサービスを受けられる仕組みを創設すること。

### (4) 観光産業の振興について

近県や県内市町村と連携し、海外や関西・首都圏へのプロモーションを強化するとともに、広域観光拠点となる施設等整備、二次交通の運行及び、各市町村等が実施するインバウンド誘客の取組に対して総合的な支援策を講じること。

### (5) 広域観光施策に対する財政支援について

市町村単独の取組はもとより、県内各圏域や近県も含めた広域連携による誘客促進のため、スポーツツーリズムなどの取組に対して、支援策を講じること。



